

# 提携米通信

2019年9月号・黒瀬農舎

格別に暑い夏でした。暑さ疲れが出ないようお気をつけ下さい。



猛暑・灼熱・グッタリをヒマワリが和ませてくれました。

我が村の「桜と菜の花ロード」夏には「ヒマワリロード」に変身。  
今年の猛暑の中、人々を愉ませてくれました。 2019.8.12 撮影

この夏は、とてつもない暑さでした。

お盆の15日には、隣町では38℃を越し、私たちの村でも37、4℃という北国秋田では経験したことの無い暑さでした。夜も熱帯夜で28℃から下がらず、この夜宿泊下さった我がロッジ利用の方々には気の毒でした。

近年、夏の天候がすぐれなかつた上、この冬は記録的な雪のない冬だったので、種蒔き頃には「今年の稲作期間は、寒いのではないか？」と思っていたのですが、田植え時期も高温、好天。6月も7月も好天続き。心配をよそに稲はスクスクと元気に育ちました。

その後も、ほとんど雨は無く、好天高温が続き喜んでいたのですが、冒頭のようにお盆の間も灼熱、その後も8月末まで高温続き。稲は、これほど暑い日が続くと、見た目には、生育旺盛の大豊作の様相であっても、収穫してみると高温障害によって期待外れになるのではないかと少し心配しています。

また、長期間の好天は、除草剤を使わない我が有機栽培田では、マガモ君も頑張ってくれましたし、新作の乗用除草機も調子よく3度も使うことができましたが、代かき作業が上手に出来ていない部分や、水管理がおろそかになった所では、ヒエが大繁茂して、お盆過ぎには、稲が見えないほど茂り、頭痛の種になっています。

パートの女性も炎天下草取りに頑張ってくれていますが、草が多くて、一日に数十メートル進むのがやっとで、一部はもうお手上げ状態です。

今年の稲刈りは、この好天続きで、例年より少し早まりそうですが、品質を決めるこれから大事な登熟期、しっかりしたデンプン形成ができるように、夜の気温が下がることと、台風が来ないことを祈りながら、最後の草取りに頑張っています。

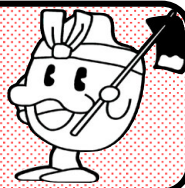
## 提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

### 黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



E-mail: [akita@kurose.com](mailto:akita@kurose.com) Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

- ★我が農舎は、電話受付の専任スタッフはおりません。日中は倉庫作業等で、留守電受付が多くなりますが、ご了承をお願いします。
- ★電話は、日祭日や、夜間もOKです。
- ★お米のご贈答利用も宜しく願います。

★黒瀬農舎からの返信メールが自動的に迷惑メールフォルダに分類されていることがあるようです。返信のメールが届かない場合は迷惑メールフォルダの確認やメールの設定をご確認下さい。

★宅配便運賃の値上がりに伴い、複数の運送会社を使うことに致しました。そのため、出荷日/サイズ/お届け先によっては、以前(前回)と運送会社が異なることがあります。ご了承下さい。

## 最後の草取り・ブナ植え予告・栽培確認と栽培技術の共有

表のページでも少し触れましたが、今年の好天で稲はスクスク育ちましたが、同時に除草剤など化学農薬を一切使っていない有機栽培田では、雑草の成長も旺盛で、一部の田圃は雑草、中でもヒエが大繁茂しました。



### 今年は猛暑・雑草の成長も旺盛

マガモ君と除草機の力の限界。残りは人力で取るしかない雑草。毎日炎天下でのヒエ取り作業が続いています。2019.8.22 撮影

7月中は、日曜日を除き、連日パートの女性の方々がヒエ取りを頑張ってくれましたが、とても、取り切れず、田圃の水を切り、土を乾かす1週間ほど中休みして、再びヒエ取り作業を再開しました。

灼熱の太陽の中を女性の皆さんが熱中症にならないよう、アイスクリームや水を入れた水を何度も補給していますが、雑草がすこぶる多いことと、余りの暑さで、作業の能率は落ち、この分では、今

年は、稲刈り直前まで続けても、全部は取りきることは出来ないようです。

炎天下に汗まみれになって作業をすることは、とても苦しいですが、休憩時間に、うまく風が吹くと、何ものにも変えられない心地よさが味わえます。まさに、働いて汗をかいた者しか知ることが出来ない快感です。

## 予告 文化の日のブナ植え (再掲載)

今年も文化の日に27回目のブナ植えを行います。まだまだ先の話をご案内する訳は、日程確定の行事ですから、早割りの航空券をお手配頂きたいからです。

例えば、伊丹-秋田の片道普通運賃 3万5千円余りが、早割りで手配すれば4分の1以下の8千円代。(羽田-秋田は1万2千円。)

11月2日夜は我がロッジで前夜祭を行います。(どこかへ廻られる方は、前後日の宿泊もOKです。)

今年は、前夜祭用に、ツキノワグマの肉も確保しています。

春の山菜の時期や、秋の果物、きのこ狩り時期の「有害駆除」で仕留めた熊は、脂が少なく美味しくありません。また、ジビエ料理店は珍しいだけで美味しいと感じることは少ないです。

前夜祭には、友人が、脂と肉の乗り切った12月に仕留めた月の輪熊の熊ナベを予定しています。マタギ直伝の熊汁は、他では味わえない傑作です。どうぞご期待下さい。そして、お待ちしております。



昨年の第26回ブナ植え  
2018.11.3撮影

ところで、8月28日には、有機栽培田で栽培状況確認会を行いました。

有機JASの認証機関による検査は、毎年、田植え直後頃に行われますが、栽培期間の終盤期に計画通り有機栽培が行われたかどうかの確認を再び行うことを一つの目的としています。



### 有機栽培計画の実施確認会

稲作栽培終盤期の確認会は、有機栽培計画の確認と共に、参加生産者の栽培技術の共有による技術向上に役立っています。2019.8.28 撮影

栽培期間前半の検査は文字通り「検査」ですが、この確認会は関係生産者のそれぞれの田圃を全員で廻ることで、確認と共に栽培上の問題点や新しい工夫、知識などを共有し、翌年の栽培革新に繋ぐねらいがあります。

お米作りは年に一回しかできません。毎年工夫を凝らし、革新した技術の米作りを30年行っても30回しかできないのが米作りの宿命です。

それぞれが工夫した技術の米作りをする20人の生産者が集まれば、1年で20年分の成功例や失敗例のデータ

や知識を共有することができて、実に効率的です。

それぞれの生産者は、毎年これを翌年の栽培革新に役立てています。